

## 古典を論理的に解釈する — 複数の文章を読み比べることでその人物像に迫る —

- 1 科目名 古典B
- 2 単元名 歴史物語
- 3 教材名 作者未詳『大鏡』 「道長の剛胆」  
(『大鏡』の「三船の才」・「南院の競射」のグループワークプリント・個人用プリント)
- 4 単元の内容

単元の目標  
と評価規準  
・評価方法

### ①単元の目標

- ア 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしようとする。(関心・意欲・態度)
- イ 古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。(読む能力)
- ウ 古典に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解する。  
(知識・理解)

### ②単元の目標設定の理由

日常、テストや解答のある課題に取り組むことに慣れ、生徒の多くは教師が提示する模範解答を疑うことなくひたすら吸収すればよいという受動的な態度で授業に臨んでいる。同時に、過程や根拠を意識することなく答え、理由を聞くと「なんとなくそう思う」という生徒もいる。おそらく、批判的に考える力と論理的に思考する力が弱いのではないかと考える。

そこで生徒には、複数の視点が存在することを知らせ、様々な意見や考えに触れることで、多面的に考える力、批判的に考える力を育てたい。さらに、考えに至るまでの論理的な思考過程を意識させ、根拠をもった上で自分の考えをもたせたい。

史実の「道長」の人物像と比較し、古典の複数の作品を読んで様々なエピソードに触れることで「道長」の人物像に迫り、複合的に考えた上でまとめさせたい。また、プリントを使用し思考過程を記述すること、グループで意見を交流すること、様々な意見の中から相対的に適切な答えをまとめて発表を行うことの三つの作業を行うことにした。

### ③中心となる学習活動

- ・個人用プリントに思考過程を記述し、自分なりの考えをもつ。
- ・グループで現代語訳の解釈について意見を交流する。
- ・交流して相対的に適切な答えを導き出し、グループワークプリントにまとめ、発表を行う。

### ④言語活動の工夫

- ・個人用プリントは事前に配布し、予習させ時間短縮できるようにした。また、活動の最後に感想を書く欄を設け、個人での予習段階の理解とグループワーク後の理解を比較できるようにした。
- ・グループワークでは現代語訳を分担し、全員に担当があるよう割り振り、何もしていない生徒を作らないようにした。
- ・グループワークで扱う文章については生徒自身の力で読解し、正確な現代語訳をすることを目的とせず、大意を取ればよいとする。読み方の一つとして大意をつかむ読み方をここで練習させたい。誤りや不十分な点は、活動後に補足説明をするようにする。

### ⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心 ・意欲 ・態度	①辞書や文法書を参考にし、もしくはグループで相談して、文章を解釈しようとしている。 ②人物像について自分の考えを深めようとしている。	観察(机間指導)	・周囲の生徒との交流、教え合いを促す。 ・正確な訳にこだわらず、話の流れと「誰がどうした」のか主述の把握を中心に大意を捉えるよう助言す

				る。
	読む能力	①論理立てて現代語訳を解釈し、グループで交流している。 ②思考過程を記述して根拠を示しながら結論を導き出している。	観察（机間指導） 点検（個人用プリント・グループワークプリントを提出）	・各自不安な点はグループで交流する際、協力・相談するよう促す。 ・「～だから～思う。」という形で考えを述べるために、まずは根拠となる本文に線を引くことから始めるよう助言する。
	知識・理解	①複数の文章を読むことでその共通点を見つけて人物像を導きだしている。 ②グループワークを通して自分の考えを深めている。	点検（個人用プリント・グループワークプリントを提出）	・一つの文章だけではなく複合的に考えるよう助言する。 ・グループの司会者を決めさせ、活動が円滑に進むよう促す。
成果と課題	<p>時間が確保できず、普段の授業では一作品一話で終わっていたが、この單元では「道長の剛胆」の解釈を中心に据え、補足として「道長」の人物像がわかる複数のエピソード（「三船の才」「南院の競射」）を読ませることができた。その際、一話一時間で、なおかつ自分たちの力だけで読ませることにした。そのため、緊張感をもち、時間を意識して取り組むことができた。一から生徒だけで読解したため、達成感もあったようだ。授業後に書かせた感想には、グループの話し合いや発表で聞いたことが内容の読解に役に立ったと多くの生徒が書いていた。</p> <p>今回、習熟度が異なる2クラスで授業を実施した。習熟度が高いクラスでは授業の目的を理解して、読解も興味深いものとなったが、習熟度が低いクラスでは、相談しても考えが深まらず、教員が補足説明を行うこととなった。ただ、短時間で多くの作品を深く読ませるという点では、アクティブラーニングという方法は有効なものだと実感した。教員が習熟度に応じて、補う部分を調整することで効果的な実践になるだろう。</p>			
アドバイス 及び 留意点	<p>①時間が確保できるのなら、分担された現代語訳を個々で考える時間、その後グループで相談する時間を十分とると良い。準備をしっかりとさせることが、その後話し合いに移った時の考えの深まりにかかわってくる。</p> <p>②今回は、教科書に掲載されている文章（『大鏡』）のみで実践したが、異なる視点で道長を描いた『栄花物語』、他教科で学習したこと（日本史）を比較対象にすれば、さらに共通点や相違点に様々な意見が出て考えが深まるかもしれない。</p>			
小中学校との系統性	<p>①中学・3年・C読むこと イ 文章の論理の展開の仕方、場面や登場人物の設定の仕方をとらえ、内容の理解に役立てること。</p> <p>②中学・3年・B書くこと イ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くこと。</p> <p>③中学・3年・A話すこと・聞くこと エ 話し合いが効果的に展開するように進行の仕方を工夫し、課題の解決に向けて互いの考えを生かし合うこと。</p>			

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○『大鏡』の文学史の意味と特徴について知る。	・『大鏡』の構成と特徴、文学史の意味について知る。【指エ】 ・教科書の本文の構成と語句の意味・漢字の読み等の確認をする。【指ア】	作品の文学史の意味を理解している。 【知】 ↓ 観察	・隣の席の生徒と読む際、お互い確認するよう促す。

		<p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の付録にある文学史表を示しながら他の作品との関係で説明する。</li> <li>・読みの確認の際、メモしながら聞くよう促す。</li> </ul>	<p>範読の後、自ら音読できている。【知】</p> <p>↓</p> <p>観察</p>	
2	○「三船の才」を読解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文1～6の現代語訳をする。各自の担当箇所の概要を読解する。同じ担当同士は相談しながら行う。【指ア】</li> <li>・A～Eのグループ（1～6の担当が全員いるように設定）になり、もち寄った現代語訳を合わせて協力して読解をする。【言イ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ前時に今回の内容を予習できるプリントを配布し、説明しておく。</li> <li>・課題については根拠を探しながら考えることを最初に注意しておく。</li> </ul>	<p>辞書や単語帳を使用しながら、現代語訳をしている。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察</p> <p>各自担当部分の発表ができています。グループ内で活発に話し合いができています。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がヒントをなるべく出さず、同じ担当の生徒同士で相談してみるよう促す。</li> <li>・グループ活動が円滑に行われるよう司会者や書記など、役割を分担させる。</li> </ul>
3	○前時の発表をし、「道長の剛胆」を読解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「三船の才」について各グループで発表し、気づいたことや感想をプリントにまとめる。【言エ】</li> <li>・「道長の剛胆」の本文に戻り、発表の内容をふまえて読解する。【指イ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の際、根拠を必ず述べること、なるべく抜き出したままではなく、まとめなおすよう助言する。</li> </ul>	<p>発表する時、根拠を示して説明できている。【話】</p> <p>↓</p> <p>観察</p> <p>気づいたことをプリントに論理的にまとめることができている。【書】</p> <p>↓</p> <p>プリントの点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの意見を比較し、参考にすることで自分の考えをまとめるよう助言する。</li> </ul>
4 (本時)	○「南院の競射」を読解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文1～6の現代語訳をする。各自の担当箇所の概要を読解する。同じ担当の生徒同士相談しながら行う。【指ア】</li> <li>・A～Eのグループ（1～6の担当が全員いるように設定）になり、もち寄った現代語訳を合わせて協力して読解をする。【言イ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらかじめ前時に今回の内容を予習できるプリントを配布し、説明しておく。</li> <li>・課題については根拠を探しながら考えることを最初に注意しておく。</li> </ul>	<p>辞書や単語帳を使用しながら、現代語訳をしている。【読】</p> <p>↓</p> <p>観察</p> <p>担当部分の発表ができています。グループ内で活発に話し合いができています。</p> <p>↓</p> <p>観察【読】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師がヒントをなるべく出さず、同じ担当の生徒同士で相談してみるよう促す。</li> <li>・グループ活動が円滑に行われるよう司会者や書記など、役割を分担させる。</li> </ul>
5	○前時の発表をし、「道長の剛胆」を読解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「南院の競射」について各グループで発表し、気づいたことや感想をプリントにまとめる。【言エ】</li> <li>・「道長の剛胆」の本文に戻り、発表の内容をふまえて読解する。【指イ】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の際、根拠を必ず述べること、なるべく抜き出したままではなく、まとめなおす</li> </ul>	<p>発表する時、根拠を示して説明できている。【話】</p> <p>↓</p> <p>観察</p> <p>気づいたことをプリントに論理的にまとめることができている。【書】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループの意見を比較し、参考にすることで自分の考えをまとめるよう助言する。</li> </ul>

		よう助言する。	↓ プリントの点検	
6	○「道長の剛胆」の読解とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「道長の剛胆」の本文を文法事項に留意しながら読解する。【指イ】</li> <li>・敬語についてプリントを使用し、復習する。【指ア】</li> </ul> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・敬語については前単元で学習し始めたばかりなので、机間指導をしながら個々に習熟度を確認する。</li> </ul>	主語や省略された言葉を補いながら、現代語訳をし、読解ができています。【読】 ↓ 観察 敬語について理解できています。【知】 ↓ プリントの点検	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul>

6 第4時の学習指導案

本時の位置	4時間目（全6時間）		
本時の学習目標	ア 辞書や単語帳を使用し、文法事項に留意しながら現代語訳をしている。 <small>(知識・理解)</small> イ グループで協力し読解をすることで、課題についてよりよい考えをまとめることができる。複数の作品を読み比べることで作品の中の登場人物の人物像を捉える。 <small>(読む能力)</small>		
事前の準備	①本時で使うプリントを事前に示し、予習として一読しておくよう指示する。 ②グループ用と個人用のプリントを準備する。 ③2時間目で行った活動と同じ方法で行い、練習させておく。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 5分	□前時までの復習と本時の課題を確認する。	①前時までの学習内容と本時の流れを確認する。 ②本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の課題を板書し、本時の目標を確認する。</li> </ul>
展開 40分	□「南院の競射」を現代語訳し、課題についてグループで話し合う。  □グループの意見をまとめる。次回の準備をする。	③本文1～6の現代語訳をする。各自の担当箇所の概要を読解する。同じ担当の生徒同士で相談しながら行う。  ④A～Eのグループ（本文1～6の担当が全員いるように設定）になり、もち寄った現代語訳を合わせて協力して読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文1～6の中で自分の担当がどれかをプリントで確認し、教師に質問をなるべくしないで自分の力で読解すること、及び同じ担当同士で相談してもよいことを確認する。</li> <li>・時間を意識して、短時間で概要をつかむという読み方も大切だと指導する。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>目標Aに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>〔規準〕 辞書や単語帳を使用し、文法事項に留意しながら現代語訳をしている。</p> <p>〔方法〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察（記述・活動の様子）</li> <li>・点検（プリント）</li> </ul> <p>〔状況Cの生徒への手立て〕 教師がヒントをなるべく出さず、同じ担当の生徒同士で相談してみるよう促す。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・概要を協力して捉え終えたら、課題について自分の考えをプリントにまとめることを確認し、話し合いを促す。</li> </ul>

		<p>解をする。</p>	<p>・図や絵を用いてもよいので必ず根拠を記述して残しておくことを指導する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>目標イに対する評価規準と評価方法</b></p> <p>[規準]  グループで協力し読解をすることで、課題についてよりよい考えをまとめることができる。複数の作品を読み比べることで作品の中の登場人物の人物像を捉える。</p> <p>[方法]  ・観察（記述・活動の様子）  ・点検（プリント）</p> <p>[状況Cの生徒への手立て]  グループ活動が円滑に行われるよう司会者や書記など、役割を分担させる。</p> </div>
<p>まとめ 5分</p>	<p>□本時のまとめ</p>	<p>⑤本時のまとめをし、次時の授業で行う発表の準備しておく。</p>	<p>・時間に余裕があるなら、個人用のプリントにまとめさせる。  ・次時の授業内容について伝える。</p>